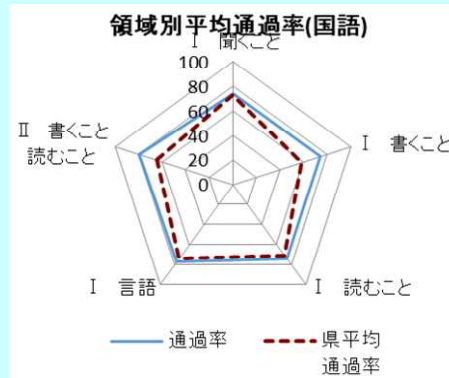
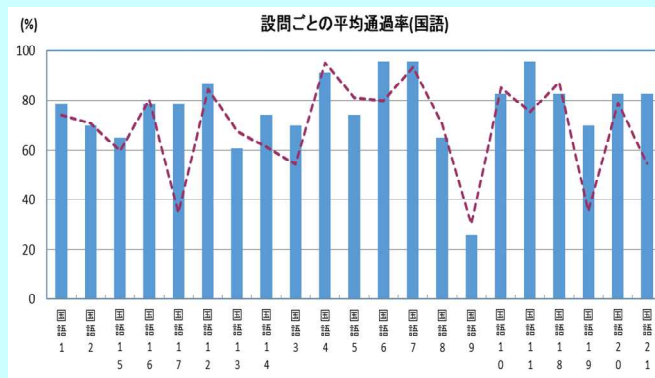


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 76.4%, 県 69.2%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向
すべての領域において、県平均を上回る通過率である。特に、書くことの領域の通過率が高い傾向がある。
- 昨年度の課題の取組みの結果
昨年度、「一文を意味を変えずに二文にする」問題の通過率が 51.5%だったことを受けて、文章を推敲する指導を重点的に実施した結果、同様の問題についての通過率が 78.3%となった。

重点課題

【課題1】

設問三1④小3の漢字の書き(始動)の通過率が26.1%(県比-3.9pt)であり、基礎的・基本的な漢字の知識に課題がある。

【課題2】

設問二3表現の技法の通過率が73.9%(県比-7.1pt)であり、基礎的・基本的な表現技法の知識の定着に課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

- ・教科書準拠の漢字学習に加えて、小学校の漢字の復習課題を定期的に与え、定着を図る。
- ・作文指導において、既習の言葉については漢字で書くように、添削する。

【課題2】

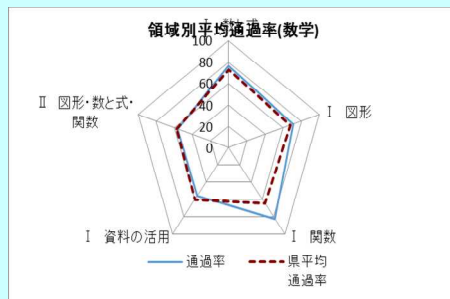
- ・物語文や詩歌の読解において、どのような表現技法が使われているか、その効果はどのようなものか意識させる。
- ・作文指導において、学習した表現技法を活用するように指導する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年生期末テスト		2年生学年末テスト	
目標値				50.0%		60.0%	
実施後数値							

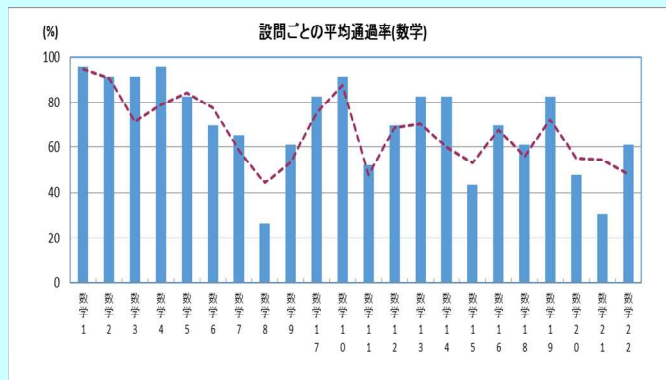
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年生期末テスト		2年生学年末テスト	
目標値				80.0%		85.0%	
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校69.8%, 県66.9%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について
 タイプⅠは73.7%, タイプⅡは56.5%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられる。タイプⅠの領域別に見ると、「資料の活用」の通過率が56.5%と低く、課題が見られる。また、タイプⅡにおいては、「関数」の領域で、事象の数学的な解釈に課題が見られる。

○昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)
 昨年度の課題Ⅰ「文字式の表し方」に課題が見られた。図やグラフを用いて、数量関係の読み取る活動を行い、今年度65.2% (前年度比+28.8pt) と向上した。

また、課題Ⅱ「事象の解釈と表現」にも課題が見られ、比例の関係にあるか判断させ、その根拠を説明し合う活動を行ったが、今年度47.8% (前年度比+8.4pt) と課題が残った。

重点課題

【課題1】

設問3「自然数の意味」の平均通過率は26.1% (県比-18.1pt) であり、課題がある。
 代表的な誤答としては、0を自然数ととらえている生徒が43.5%いる。

【課題2】

設問12(1)「事象の数学的な解釈」の平均通過率は30.4% (県比-24.3pt) であり、課題がある。
 代表的な誤答としては、比例の事象を「反比例」ととらえている生徒が30.4%、「比例、反比例のいずれでもない」ととらえている生徒が39.1%いる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

・数の拡張の場面で、「正の数, 負の数, 0」, 「有理数, 無理数」を指導する場面で、これまで学習した数を活用する場面を日常生活の中で見だし、数を分類することの有用性をとらえさせる。

【課題2】

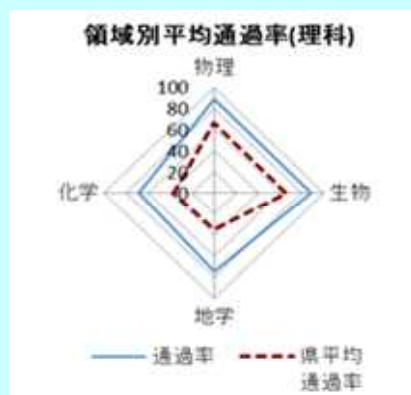
・関数の定義を再確認するとともに、比例, 反比例, 一次関数, 2乗に比例する関数等について、表, 式, グラフを用いて、特徴を比較しながら関連づけをさせる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1年・期末試験		1・2年生 学年末テスト	1年・復習テスト
目標値				50%		60%	60%
実施後数値							

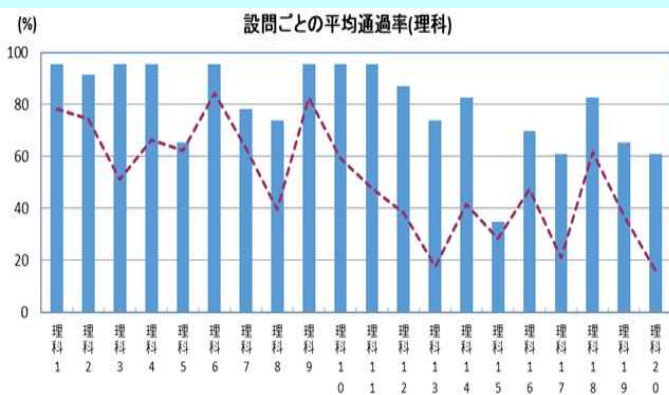
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1年・期末試験		1・2年生 学年末テスト	1年・復習テスト
目標値				50%		60%	60%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 79.8%, 県 50.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 理科の結果において、タイプⅠは 86.2%、タイプⅡは 70.1%の通過率となっている。通過率 30%未満の生徒は0%、通過率 60%以上の生徒は 91.3%であった。この結果から、基礎的・基本的な知識・技能の定着及び思考力・表現力などの学力については十分に定着が図られていると考えられる。
- 昨年度は、「用語に関する知識・理解」及び、「活用に必要な知識・理解」に課題が見られた。また、表の読み取りや文章表現に課題が見られた。そこで、ノート複写の宿題、毎時間の小テストを継続し、授業において用語を使った文章表現をさせる取組を行った結果、タイプⅠが県比+31.7pt、タイプⅡが県比+24.8pt、全体で県比+29.0pt となった。

重点課題

【課題1】設問 2 (3)「仮説を検証するための条件制御」が通過率 65.2 (県比+3.1pt) で、県平均を上回ったポイントが最も少なかった。
それぞれの仮説を検証するために条件を変えた実験のどれとどれを比較すればよいかの組み合わせが不正解だった生徒は、他の組み合わせのものを1~2名ずつ選択していた。感で選択したと思われる。条件制御について理解が不十分である。

【課題2】設問 6 (2)「地層の広がり方」が通過率 34.8 (県比+6.4pt) で、県平均を上回ったポイントが2番目に少なかった。等高線からその地点の高度を読み取り、それと柱状図を組み合わせることで答えを導くことが理解できていない生徒が多い。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

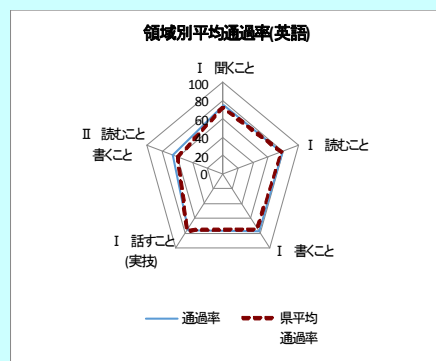
- 【課題1】
法則性を導き出す実験において、自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画を立て、条件制御を行って検証する活動をさらに多くする。
- 【課題2】
高さのちがうそれぞれの地点の柱状図への地層の現れ方を、モデルを使って、より視覚的に捉え理解を深められるように工夫する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						1・2年生 学年末試験	1・2年生 H29「基礎・基本」
目標値						65% 70%	70% 75%
実施後数値							

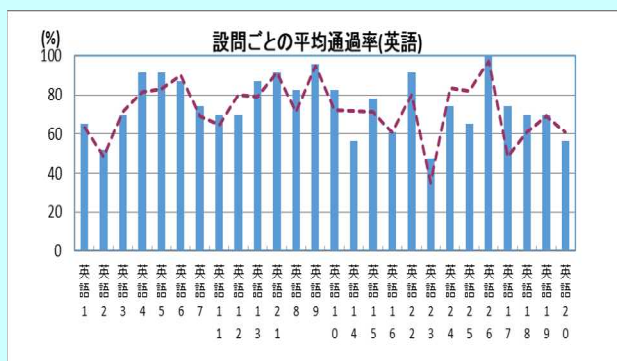
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法						1・2年生 学年末試験	1・2年生 H29「基礎・基本」
目標値						40% 50%	50% 60%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 74.9%, 県 72.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 教科全体では、平均通過率は74.9%で、昨年度の結果と比べると、3.8pt 上昇した。
- タイプ別に見ると、タイプⅠが76.3%、タイプⅡが67.4%で、昨年度の結果と比べると、それぞれ1.8pt, 15.1pt 上昇した。
- 領域別で見ると、「話すこと」に関する領域においては、75.7%の通過率となっているが、「読むことと書くこと」の領域では67.4%と課題がある。

重点課題

【課題1】

「話すこと」の領域において、自分自身のことを英語で正しく伝わるように話すことに課題がある。(実技3文法表現)

【課題2】

「読むこと」「書くこと」の領域において、前後の文脈から英文を組み立てることや自分の考えや気持ちなどを正しく伝わるように書くことに課題がある。(大問7-2, 大問9, 大問12)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

毎時間の授業の始まりに2分間のスピーキング活動を行う。活動の中で、お互いの良い表現やうまく伝わらなかったことを共有できるような振り返りを行い、自分自身のことをより正しく相手に伝える言い回しや表現、文法事項の定着を図る。

【課題2】

「読むこと」の指導においては、前後の文脈を意識できるような発問や課題プリントの作成を行う。また、「書くこと」の指導においては、新出・既習どちらの文法事項も使う必要のある自己表現活動を行い、読む相手や文と文のつながりを意識した英作文に取り組ませる。

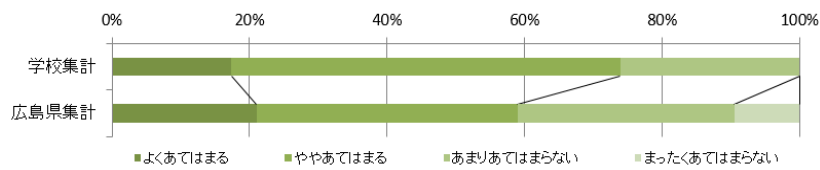
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			2学年スピーキングテスト			2学年スピーキングテスト 1学年スピーキングテスト	
目標値			70%			75% 60%	
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2学期期末テスト		2学期期末テスト 1学期期末テスト	
目標値				60%		65% 50%	
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

(1) 生活・学習

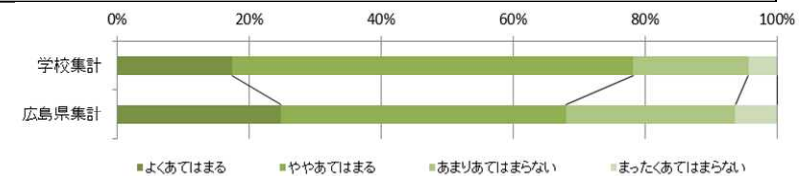
学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。



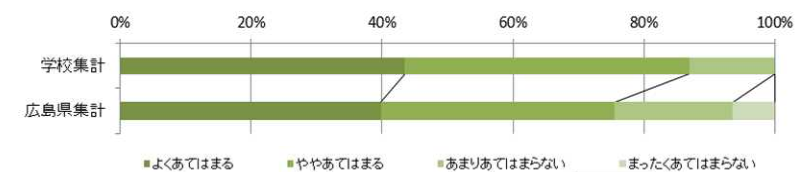
生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
肯定的評価は、78.3%で県平均66.1%は上回っているものの、「よくあてはまる」と回答した生徒が34.8%（県平均26.5%）と低く、振り返りの質的向上が必要である。	全教科の授業の終末において、振り返りを行わせ、自分の学びを語らせる。	1・2年	60	生徒質問紙調査	12月2月		

(2) 教科

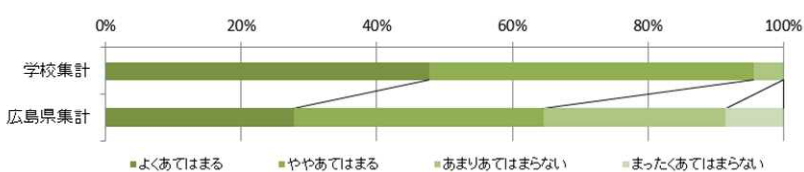
国語の授業では、伝えたいことの方がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。



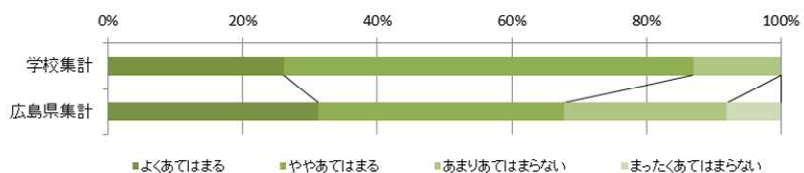
数学の授業では、問題を解くときには、前に習ったことが使えないかいつも考えています。



理科の授業では、自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画を立てています。



英語の授業では、物語や説明文などの英語で書かれた文章を読むときは、書き手の伝えようとは何かを考えて読んでいます。



	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、伝えたいことの方がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。」という設問について、「よくあてはまる」と回答した生徒の割合は、17.4%と低かった。	プレゼンテーションやパネルディスカッションを行うことを通して、話す・聞く活動を充実させ、音声言語を通して要点をとらえられるようにする。	2年	60	生徒質問紙調査	12月2月		
数学	「数学の授業では、問題を解くときには、前に習ったことが使えないかいつも考えています。」という設問について、「よくあてはまる」と回答をした生徒の割合は、43.5%と低かった。	新しく学んだ内容と、これまで学習した内容をつなげることを意識するような振り返りの視点を与え、振り返りを書かせる。	2年	60	生徒質問紙調査	12月2月		
理科	「理科の授業では、自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画を立てています。」という設問について、「よくあてはまる」と回答をした生徒の割合は、47.8%と低かった。	生徒の課題を解決したい気持ちをさらに高める。そして、解決のための実験方法を生徒に考えさせることで、目的意識をもった観察・実験をさせるようにする。	2年	60	生徒質問紙調査	12月2月		
英語	「英語の授業では、物語や説明文などの英語で書かれた文章を読むときは、書き手の伝えようとは何かを考えて読んでいます。」という設問について、「よくあてはまる」と回答した生徒の割合は、26.1%と低かった。	英文を大まかに理解するだけでなく、キーワードとなる部分や書き手が一番伝えようとしている部分を意識できるような発問、ワークシートを行う。	2年	50	生徒質問紙調査	12月2月		

